

挺対協週刊ニュース 2015-4 号

2月2日(月) - 8日(日)

報告: 挺対協常任代表 ユン・ミヒャン

翻訳: 永塚賀津子

ハルモニのために悲しく、ハルモニのためにうれしかった一週間、人々のために胸を痛み、人々のために幸せだった一週間がこんなにも早く過ぎてしまいました。

「私たちの活動が、記憶の底に深くしみついた痛みを払い落して人々を立ちあがらせ、笑顔にさせられたならどんなにうれしいでしょうか」

「私たちの活動が、記憶の外に投げ捨てた過ちを再び抱えて戻り、その過ちを悔いて責任を負うようにさせられたらどんなに良いでしょうか」

そんなことを考えながら日々人に対し、事件を読み、一生懸命駆け回っています。それが、疲れて横になりたくてもぼっと立ちあがらせる理由でもあります。一週間のニュースの中にそんな多くの感情を、内容をすべて盛り込むのは難しいですが、文字の後ろに込められている、文章の後ろから飛び出してくる活動家の心が伝えられたらとてもうれしいです。そんな思いで四回目の週刊ニュースを書き、皆様にお送りします。

常任代表 ユン・ミヒャン 拝

2月2日(月曜日)

1、三回目の週刊ニュースを約 4500 名余りの方にお送りしました。送るだけでほぼ一時間以上を費やしました。お一人お一人の名前を見ながら関わりと縁について考えてみるのも悪くありません。

2、フェイスブックにもう一人のハルモニが亡くなったという訃報を載せると、記者から引きも切らず電話がかかってきました。挺対協はハルモニの訃報を載せる時、先ず遺族に尋ねます。名前を公開してもよいか、葬儀を知らせてもよいか... また、ハルモニの事情を公開してもよいか。しかし1月31日に亡くなったハルモニは238名の登録者中238番目に登録した方で、事情も全く公開していなかった方なので公開する事項がないと言って了解を求めましたが、記者の質問は執拗でした。地域はどこか。何歳で連行され、何年間いたのか。一人で暮らしていたのか。水曜デモなどの活動に一生懸命参加したのか。遺言を残していないか。夜遅くにも電話をしてきてまるで誘導尋問のように尋ねる新聞記者。先週は「亡くなったのは本当のことか」と聞く記者もいました。どういう意味かと反対に尋ねると報道資料が来ないからと言って、どうしてうちの新聞社には報道資料を送らないのかと追及するようにも聞こえました...

記者の情熱はありがたくもありますが、遅い時間には電話よりむしろメールで送ってくれないでしょうか。また、報道資料での公開が難しいと言ったら、そのまま受け入れてもらうわけにはいきませ

んか。

3、沖縄の佐喜眞美術館の館長がソンゴンフェ大学のハン・ホング教授と共に戦争と女性の人権博物館を訪問し、見学しました。

4、シェルター[平和のウリチプ]で園芸治療のプログラムを行いました。新年に入って初めての園芸治療教室でした。黄斑変性症により目の見えないキム・ボクトンハルモニは園芸の先生と挨拶を交わし、授業には参加できないので部屋に戻りました。キル・ウォノクハルモニは「ああ、大変だ」と言いながらもとても一生懸命作りました。歌を歌いながら多肉植物の添え木に絵をかき、その後できれいな容器に植えて作品を完成しました。この日のハルモニの姿は本当に美しかったです。



2月3日(火曜日)

1、ウリチプに美容師が来てハルモニの髪をきれいに整えてくれました。挺対協のボランティアでもあり後援会員でもあるインミョン女子高校のホン・インギ先生の教え子のヤン・ミギョンさんが、学校に通っている時に『美容師の資格を取ったら日本軍「慰安婦」被害者のハルモニの髪を整えに行く』と言っていた約束を守ってくれました。そんな教え子の気持ちに韓国アップスタイル専門家協会の副会長と会員も一緒に同行し、ハルモニの髪をきれいにカットしてくれました。

気分の良くなったキム・ボクトンハルモニはナビ基金についての話やいろいろな話をしました。お昼は食べたと一生懸命辞退されましたが、キル・ウォノクハルモニはジャージャー麺を御馳走したいと言って注文しました。プレゼントに花束とひざかけを持ってきてハルモニに渡し、今度また来るからと約束してくれました。本当にありがとうございます！



2、午後、アメリカから特別なお客様が来ました。ジョージワシントン大学の Mike M.Mochizuki 教授で、日本軍「慰安婦」問題解決のためにアメリカや国際社会は何をしなければならないか意見を求めました。駐韓日本大使館前の平和路にある平和の碑にも行って来たと言う教授は韓日間の問題として認識するより、普遍的で国際的な女性の人権問題として日本軍「慰安婦」問題を認識し、共に連帯していくことが必要だという自身の意見も述べました。日本軍「慰安婦」問題を単に過去の論点ではなく今も依然として続いている戦争中の女性に対する暴力、人道に反する犯罪として認識することもこの問題の解決において重要な立場であるという意見も述べました。私にとって意味のある二時間余りのインタビューの時間、私たちの考えと気持ちをいろいろな人と共有することは楽しいことです。



2月4日(水曜日)

1、韓国性暴力相談所の主管で第1164回日本軍「慰安婦」問題解決のための定期水曜デモを行いました。第1164回水曜デモはテグに暮らしていて先週土曜日に亡くなった故パク・ウィナムハルモニの追悼から始まりました。性暴力相談所の活動家が「パウィチヨロム」の歌に合わせて力強いダンスをしました。

ハルモニが逝かれた道に労いの気持ちも込めて踊りました。





ユン・ミヒャン常任代表は、日本から参加した平和委員会及びみなさんへの歓迎と感謝の挨拶で発言を始めました。「いつの間にか平和路には約束をしなくてもこうして多くの方が共に集ってくれます。第 1164 回水曜デモまで私たちが投げ出さずにやって来れたのは互いに約束をしなくてもここへ向かい、意思を通わせる多くの方がいたから可能でした。言葉が通じなくても私たちには互いに分かち合えるものがあります。それはまさに平和への心です。ここ平和路が取りも直さずそんな空間なのです。性別、民族、人種、思想を越えて平和のために人々が出会うところです」と、水曜デモで互いに会った人々が一つになっていることを説明しました。土曜日に亡くなったハルモニは 238 番目、最後に口を開いて「慰安婦」被害者だったことを世に明らかにした方でした。真の追悼と言うのは「ハルモニが経験した歴史を記憶すること、ハルモニが願っていた戦争のない世の中をつくること」であり、「平和の碑の少女の隣の空席は、先に世を去ったハルモニの席であり、私たちの席でもあります。この席で『慰安婦』問題解決のために声を上げる私たちすべてが最後まで連帯するという無言の約束なのです」と続けました。「どんな戦争も、どんな暴力も、どんな権力も、どんなお金も女性の人權を蹂躪することはできないこと、女性をそのような道具として使うことはできないこと、そのことを分からせ、そんな世の中を作ってくれというハルモニの叫び、その叫びを常に私たちの心に刻もうと訴えました。平和ナビは全国各地での、希望ナビは日本を巡回している活動について報告し、力強いスローガンを叫びました。



第 1164 回水曜デモを主管した韓国性暴力相談所の一人の研究員は水曜デモを準備しながら自身の無関心を反省したと言います。大韓民国憲法第 10 条にすべての国民は人間としての尊厳と価値を持ち、幸福を追求する権利を持っている。国家は個人の持つ不可侵の基本的人権を確認し、補償する義務を負うと規定しているが、現在、沈黙している政府の態度は非常に恥ずかしく残念だと表明しました。

今日の集会には日本の市民団体である平和委員会から 34 名が参加しました。千坂純事務局長は会場からの発言で「ナヌムの家を訪問してハルモニと対話し、日本軍『慰安婦』は最悪の人権蹂躪であり、ハルモニの健康と尊厳を奪った悪辣な犯罪だという事実を痛烈に感じた」と感想を述べました。また、「侵略戦争一色だった歴史を反省しない安倍政権は日本国民の恥だと思う。日本政府が一日も早く心からの謝罪と賠償をしなければならないのはもちろん、日本国憲法 9 条の改悪を止め、日本が戦争のない国になるよう全力を尽くして努力する」と述べました。





戦争と女性の人権大学生サークル AIESEC も参加しましたが、その中で中国人学生のヤティンさんが発言に立ち、「日本軍『慰安婦』被害者ハルモニの問題はアジア全体の問題だと思います。ハルモニは世界で唯一の生き証人であるし、日本政府の謝罪と賠償のために最後まで闘うことを念願する」と応援し、「ハルモニ、頑張ってください」と韓国語ではにかみながら話しました。

メソジスト神学大学の学生がハルモニに手作りのレモン漬けをプレゼントしました。インチョンのチョウン高校のサークルから参加した生徒は「試験勉強をされていて歴史の本を見たんですが、その本に日本軍『慰安婦』問題についてはたった一行でした。今もハルモニが苦痛を受けていて絶対忘れてはいけない事実なのに、果たして一行に要約整理できるものなのかという思いがしました」と言い、歴史教育の重要性を分かせてくれました。

今回の第1164回水曜デモの主管団体である(社)韓国性暴力相談所は声明書で「先月19日安倍総理はイスラエルのエルサレムにあるホロコースト記念館を訪問してドイツのナチ犠牲者を追悼したが、日本の植民地支配と『慰安婦』問題に対する反省は全くしていない。最近行われた韓日両国の局長級協議でもこれと言った成果を出せていないばかりか、先月17日には日本政府と極右団体がワシントンに集まり、アメリカ歴史教科書の『慰安婦』記述に対して組織的に歪曲を試みたことが確認された。日本政府は日本軍『慰安婦』被害者が全員世を去り、歴史の中に消えていくことだけを待っているようで、歪曲と隠蔽に明け暮れているが、私たちは日本軍『慰安婦』被害者の名誉と人権回復のために最後まで共に闘う」と声をあげました。

今日の水曜デモは韓国性暴力相談所活動家を始めとして日本平和委員会、チュンチョン平和ナ

ビ企画団、平和ナビネットワーク、劇団「キ」の皆さんと AIESEC(戦争と女性の人権サークル)、蔚山サミル女子高校踏査班「パルカデ」、ヨンインのシングル高校の歴史人権サークル「サイン」、ハンシン大学、メソジスト神学大学の学生が参加しました。

2、2月4日、大阪駅で開催された水曜デモには、韓国から希望ナビが参加し、日本軍「慰安婦」問題解決関西ネットワークの人々と共に行いました。希望ナビは1月31日から10日間日本の関西地域と東京を巡回し、平和紀行をしています。日本で活動している在日コリアン、日本市民にも会い、在日の高校生にも会い、日本軍「慰安婦」問題のための行動や在日朝鮮学校差別、弾圧政策に対する行動を一緒に繰り広げながら巡回しています。



火曜日は、大阪府庁前で毎週火曜日に在日朝鮮高校無償化実施を要求して集会をしている日本の市民と在日コリアンの火曜行動に連帯し、水曜日には日本軍「慰安婦」問題解決のために大阪駅前で行われた第101回水曜デモに連帯しました。

第101回水曜デモは希望ナビによるフラッシュモブのダンスで始まりました。ポップアリアンに合わせて楽しそうなダンスをする希望ナビを見ながら日本の市民もとても楽しんでいました。





最初の訴えは第 101 回水曜デモの主催者である関西ネットワークから、今の日韓の社会情勢の違いについての問題を解決するために何が必要かについて発言がありました。次に関西ネット [水曜デモ] ダンスと希望ナビの [パウイチヨロム] ダンスが続きました。多くの人と一緒に [パウイチヨロム] を踊り、ダンスを通して非常に大きな力が感じられました。



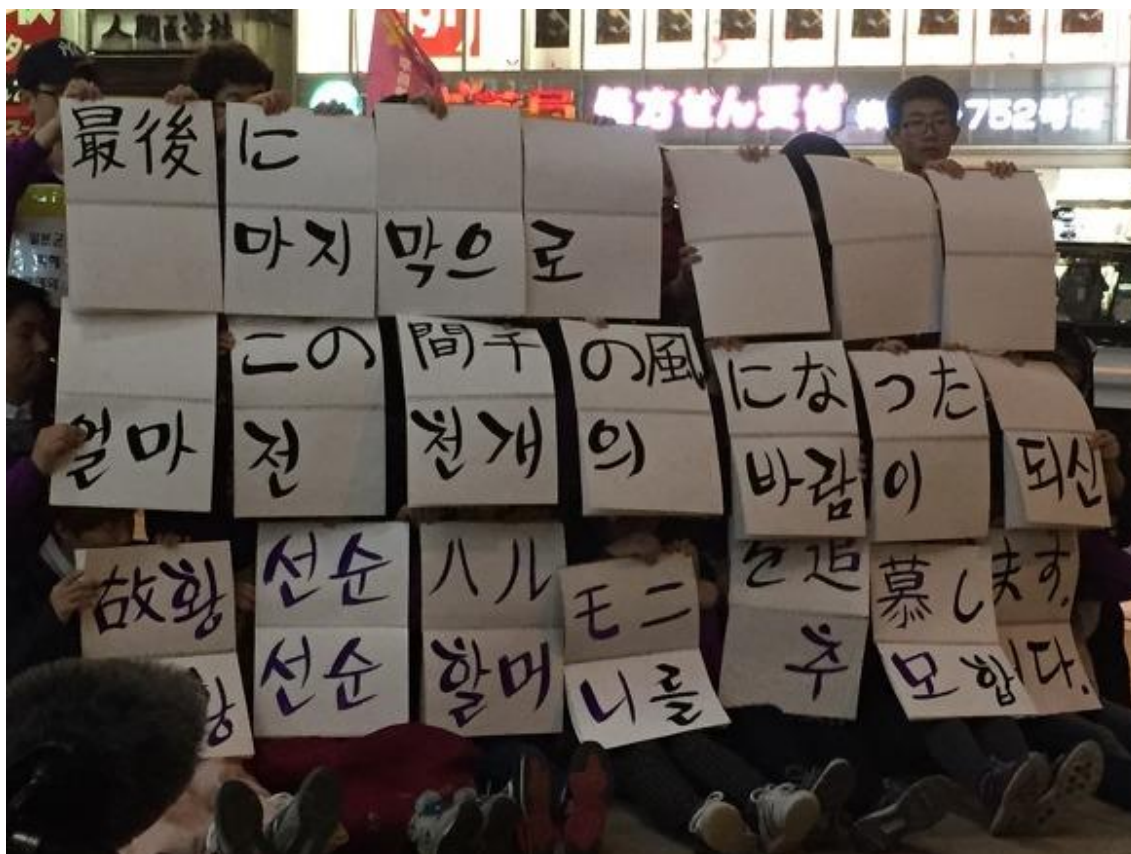
希望ナビの代表は発言を通じて『慰安婦』被害者が続いて 2 名亡くなった。解放後 70 年を過ぎてもいまだ解放されない被害者がいる。私たちは日本に反対しているのではない。本当に親しくなる

ためにはこうした問題を解決しなければならない。謝罪し反省することは恥ずかしいことではない」と訴えた。

そうした中でも街頭では日本の右翼団体が車を走らせながら「朝鮮人は出て行け」などのヘイトスピーチを行っていました。

続いて希望ナビは最近亡くなった二名のハルモニとセウォル号の犠牲者を追悼する意味のカードセクションを広げました。『千の風になって』に乗せたカードセクションでした。これは日本では見られない訴え方だったために感銘を受けたと、関西ネット活動家から評判でした。日本軍「慰安婦」制度とセウォル号によって犠牲となった多くの人への追悼を心で見ている日本の市民も涙を抑えることができなかったそうです。

日本の青年も発言を通して、「テロリストを許さないというが、朝日の植村記者と大学に対する脅迫行為はテロではないのか！」と今の日本の情勢を批判しました。続いて再び希望ナビの歌とダンス、そして関西ネットの歌に続いて最後に全員が力強くスローガンを叫びました。



3、毎週水曜日、ヘナムナビがコン・ジョミョプハルモニを訪ねています。同じ地域に日本軍「慰安婦」被害者のハルモニがいることを知って住民がナビの会を作り、こうしてハルモニを訪ね始めてからもう1年が過ぎました。2月4日水曜日、ヘナムナビのイ・ナミさんが送ってくれたニュースを皆さんに伝えます。

黄砂で世の中がすっかりぼやけ、立春の寒さが染みる日、チャン・ギョンドさんと生協で待ち合わ



せてハルモニ宅に向かいました。部屋がひんやりとして暗い中、横になっていました。喜んで迎えてくれました。自分の家のように思いっきりストーブの温度を上げて、湯を沸かしてゆず茶を入れて飲みながらハルモニと仲良く話に花を咲かせました。最近急に涙もろくなったハルモニ...この日もイムジン河を越えた場面とご主人を思い出す場面で突然涙がこみ上げて来ました。頼りがいがあり、子どもを大変可愛がっていたという...話の最後に挺対協で済州島旅行に行ったときにはハルモニがまだたくさんいたのにその後随分亡くなったと悲しんでもいました。



4、ユン・ミヒャン代表は水曜デモが終わってすぐに済州島にいるイ・ヒョジュ挺対協初代共同代表に会いに来ました。今年、分断 70 年、光復 70 年という歴史的に重要な時点に女性たちが平和のために共にできることについて先生の提案も受けながら、現在行っている状況についても伝え、5 時間に及ぶ長い時間を先生宅で話し合いました。

2 月 5 日(木曜日)

1、国会放送が光復 70 年を迎えて 3.1 独立運動記念日特集の放送を準備しているそうです。このため戦争と女性の人権博物館の撮影もし、事務所でユン・ミヒャン代表に[挺対協が歩んできた道、残された課題、国会と政界に望むことなど]についてインタビューをし、ウリチプに移動してキム・ボクトン、キル・ウォノクハルモニとこれまでの人生の話、現在の生活、今後の願いと望みなどについてインタビューをしました。

2、ソウル市では光復 70 年を迎え、日本軍「慰安婦」に関連した行事を推進しているそうです。このため挺対協と互いに協力することについて政策/事務的な内容を共有しました。

2 月 6 日(金曜日)



1、韓国教会希望奉仕団の定期総会に参加するために京畿道イルサンに駆けつけました。希望奉仕団は2012年からウリチプ[平和のウリチプ]を定期的に後援してくれています。すべてを言い尽くすことはできませんが、こうして総会に参加し、私たちの気持ちを感謝の挨拶で伝えました。

2、ソウルから朝早く慶尚(キョンサン)道地域に向かって再び出発しました。キム・ボクトウクハルモニが少し前に重患者室に入ったとの知らせを聞き、私たちみんなドキッとしました。引き続く訃報に不安になった私たちは早くハルモニを訪ねなければという思いで、無理な日程でしたが、取るもの



のも取りあえず出発した旅行でした。今日のメンバーは3名でした。ユン・ミヒャン、ソン・ヨンミ、アン・ソンの三人が交代で運転するので疲れはずっと軽減されました。

幸いにも出発前、ハルモニは、症状が再び峠を越えて、重患者室から一般病室に移ったと聞き少し安心することができました。

午後5時ごろ、トンヨンに到着し、ハルモニはお粥以外何も食べられないものの看病人と見舞に来る人にでも食べてもらおうと、果物と飲み物を準備してハルモニがいる病院に向かいました。トンヨン市内から少し離れた山中に位置している病院は療養するのに本当に良さそうでした。ハルモニの病室に入ると先ず看病人が喜んで私たちを迎えてくれました。ハルモニは静かに目を閉じて休んでいて、私たちを見ると少し唇を動かしましたが、何を言ったのか正確には聞き取れませんでした。

ハルモニの手をぎゅっと握って話しかけながらハルモニの心の奥に隠れている記憶を引き出そうとしてみました。金剛(クムガン)山人権キャンプの話もし、済州(チェジュ)島人權キャンプの話もしました。携帯で撮った平和の碑の少女像の写真も見せ、日本大使館前の水曜デモの写真も見せました。ハルモニの瞳に力が宿り、「ああ... 思い出したよ」と言って口を開き、暖かい春の日に健康を回復してお出かけしようという話に「今は遠くに行けない」と答えました。平和の碑の少女像の写真を見せると、コジェにもあると、震える唇の間から小さな声を出しました。甥たちがしばしば病院に来るという話を聞き、本当に良かったとハルモニに笑いかけるとハルモニも笑ったように見えました。元気な時は甥と仲が良くなく他人のように暮らしてきたことがありましたが、こうしてハルモニが病で床についてから甥が訪ねて来るようになり、失われたハルモニの家族が見つかったようでうれしかったです。



ハルモニに、必ず回復してこの次訪問する時にはこうして横にならず、私達とおいしいものを食べに出かけると約束しようと小指を出すと、指をかけて「約束」しました。温かい抱擁をして病室を出て来ましたが、バイバイと手を振りながら気をつけてと挨拶もしてくれました。

誰より粘り強かったキム・ボクトウクハルモニ... 昨年、コジェで行われた平和の碑の除幕式には一緒に参加し、喜んでいたのに、こんなに早く床についてしまいました。ハルモニに健康の祝福を祈る夜でした。

3、総会報告書を準備するのにキム・ドンヒ事務所長は事務所で徹夜し、ヤン・ノジャチーム長は、慶尚(キョンサン)道へ来るためにウリチプを空けたソン・ヨンミ所長の空席を埋める一方でやはり総会報告書の準備もしました。

2月7日(土曜日)






1、うわぁこれはどうしたこと～～！！数週間ぶりに再びナメにいるパク・スギハルモニに会いに来た私たちはハルモニを見た瞬間、誰からともなく喜びの声をあげてしまいました。急に気力がひどく衰え、皮膚まで傷ついてしまったハルモニがこぎれいな姿でベッドに座って私たちを待っていたので、一目でとても良くなったと分かりました。うれしくてハルモニの傍に寄ってもう一度話を始めました。ナメ市場でたった今仕入れてきたセアルコン(豆)粥や果物などを開けて健康を取り戻そうと一緒に決意を固めました。すぐにはソウルにもどこにも行くことはできませんが、体がもっと良く

なって陽気も暖かくなったら風に当たりにソウルに行こうと再度約束しました。病院の中にインフルエンザが流行っているのでマスクを使用しなければならなかったのですが、喜びの写真も抜くわけにはいきませんでした。歩行器を紛失して横にいるハルモニのを借りていると知り、走って行って歩行器を買い、ハルモニの名前も大きく書き入れたので、ハルモニがまた笑顔になりました。やはり起き上がり小法師のように再び起き上がるハルモニの姿はありがたく感激で、その後すぐにチャンウォンへ向かう歩みがどうして軽くないわけがあるでしょうか～



2、パク・スギハルモニの好転した姿に安心した私たちの期待はそんなに長続きしませんでした。チャンウォンにいるイ・ヒョスンハルモニに会った瞬間、沈んでしまいました。栄養食の管と呼吸の管を差したまま思い通りに息さえできないハルモニは座った姿でずっといるそうです。呼吸がどれほど辛いのかあちらこちらへ体を動かし...ハルモニはおそらく苦痛の中にいるようです。座ったままこっくりこっくりまどろんでいたハルモニの手を握り、何とか私たちの気持ちを一生懸命伝えてみます。妹さんと看病人を通してあれこれ話を聞き、その痩せ細った手をぎゅっと握り挨拶しましたが、握手をしようという言葉に、それでもハルモニの手に思いのほか力が入りました。こんなふうに少しでも力を出してくれることを、もう一度ハルモニに奇跡が起こることを、切に願います。その気持ちが分かったのかハルモニは手を振って私たちを見送ってくれました。



진료과	성명	성별	나이
IP	이훈순	♂	89
입원일	15, 7/11	수술일	2/4 1114 → 9B
주치의 (담당과장)		담당의	
A	 B	C	호실 
창원  병원			

慶尙(キョンサン)道訪問を終えてソウルに帰る途中私たちは又、地方訪問の計画を立てました。ソン・ヨンミ所長が「代表、全羅(チョルラ)道と忠清(チュンチョン)道地域をいつ回りますか」と聞きます。「そうねえ... 早く回らなければねえ...」全羅道、忠清道、最後にナヌムの家まで回れたら良いのだけれど... 来週の5回目のニュースで、いつ訪問し、ハルモニの状況がどうだったかをまたお伝えします。その時までご心配でしょうが、少しだけお待ちください...